

令和5年度 事業計画

令和4年度も、当会の諸事業・行事に多大なご理解・ご協力を賜り、無事終了することができましたこと、会員・賛助会員・関係各位の皆様にご感謝申し上げます。

一般社団法人山梨県臨床検査技師会会長（代表理事）として3年を迎えることができました。

昨年は、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」による感染症拡大により、医療現場は医療崩壊にも陥りかねない危機的状況を経験した中で、会員の皆様は大変なご苦労をされていることと存じます。

日臨技では、医師の働き方改革を進めるためタスク・シフト/シェアの推進に関する厚生労働大臣指定講習会が開催されています。講習会の基礎講義については日臨技ホームページからオンデマンドで受講のうえ、履修者は県内で開催する実技講習（最大60名を定員）を受講して修了となります（今まで約130名程度が修了）。国家資格への業務追加であるため、既に資格を有しているすべての臨床検査技師の修了が望まれます。また、地域ニューリーダー育成研修会が次の時代を担う若手技師の組織強化を図るため今年度から再び開催されます。

梨臨技では、職能団体として私たちに与えられた使命は、学会や専門研修会の開催はもちろんではありません。公益事業として昨年6月「新人研修会」のYouTubeで実施し、日臨技からの委託事業である公益事業として、全国展開している11月の「検査と健康展」は、新型コロナウイルス感染予防を徹底したうえで高校生へ臨床検査技師の職種説明と検査体験を実施したところ19名が参加し、一般来場者企画では479名の県民が来場し盛会で好評でした。今年度も継続します。「リフレッシュ研修会」、「学術講習会」はZoomによるweb研修会を行いました。小瀬でVF甲府の最終戦に合わせて「HIV/STI 予防啓発キャンペーン」は若梨部会員での実施が定着し、県健康増進課との共催で盛り上がりを見せています。今年も、VF甲府のJ1復帰を目指して応援しつつ開催する予定です。更に新人研修や組織・地域間の連帯の強化、行政や大学、関連団体との連携も強化して行かねばなりません。臨床検査技師が、顔が見え、認知され、さらに県民に必要なとされる職種となるよう技師会運営に努めていきたいと考えます。対面での講習会や研修会以外に、指手消毒や換気を徹底し、「三密」を回避したオンラインでの会議や研修会の開催はZoomやYouTubeなどが定着してきています。「山梨臨床検査フォーラム」を2月に開催しました。県医学検査学会は、甲府A地区の担当でWEBと現地開催のハイブリッド形式（Zoom研修と会場）で開催されました。令和5年度はB地区の担当となります。会誌の発刊も視野に学術向上・技術の研鑽、会員同士の絆を深めてまいります。

当会は、県と「大規模災害時における人材派遣の協定」を結んだことから、災害対策も強化しなくてはなりません。避難所等における健康検診を行うためのコロナ収束後、訓練も実施いたします。県の事業「感染症危機管理対応専門人材養成研修」の対象職種に選ばれ技師会として受講者を推薦し県に協力して研修を実施しました。来年度も事業に対して受講者の推薦依頼があるため、協力していきます。また、若手技師の会「若梨部」も新たな発想、学術

研鑽や相乗効果を持ち、ニューリーダーを育成できるよう支援してまいります。
今年度も日臨技及び、支部内や各県と連携を図り、更に行政とのつながりを強化し、地域医療及び公衆衛生の向上と医学検査の発展に努めます。

今年度は、技師会創立 70 周年にあたります。記念式典の開催や、記念誌の発行も予定しています。また、令和 7 年度には、関甲信支部学会が山梨県の担当で開催されますので、準備にも取り掛からなければなりません。日臨技及び、支部内各県と連携を取り、首都圏支部とも協働しながら地域の発展に努めます。

令和 5 年度の山梨県技師会は、以上のことを踏まえ、当会の目的を着実に推進すべく、下記の基本方針を軸に、公正で透明性の高い運営を目指します。

- 基本方針
- (1) 学術活動の推進
 - (2) 人材育成（卒後教育を含む）
 - (3) 組織の強化・活性化
 - (4) 情報網の整備（災害対策を含む）
 - (5) 公益事業の推進と他関連団体との連携強化
 - (6) 県技師会主催事業の開催

1. 学術活動の推進

学術は、技師会活動の根幹を占めることから、学術部研究班活動を中心に、多くの会員が積極的に研修会に参加できるよう企画する。医学検査学会はB地区担当で開催される。日臨技が医療保険制度改革や医療提供体制の見直しや医師の働き方改革を実践するため、渉外部と組織部が中心にタスクシフト・タスクシェアリングに関する実技研修会に取り組んでいく。山梨臨床検査フォーラムを更に充実していく。また、関甲信支部・首都圏支部と連携をとりながら、更なる学術研修会の推進を図る。新たな品質保証施設認証については、認証取得施設の普及を図りたい。

2. 人材育成（卒後教育を含む）

就職から 5 年程度の会員を対象とした新人教育として公益事業への参加と研修会を実施し、日臨技及び公益活動への理解と、夜間・休日の検査ポイントの知識向上を図る。また、地域ニューリーダー育成に力を注ぎ次の時代を担う若手技師を育てる。更に、「若梨部」を将来の技師会や施設を担って立つような人材育成するため支援していく。J-STAGE に登録されている学会抄録集への論文投稿にも協力していきたい。

3. 組織の強化・活性化

地区理事を中心とした地区活動の強化・親睦を図り、技師会未加入技師の入会を図る。OB会『銀の輪』の普及と加入推進を図る。今後、更に会員の比率が増す女性会員も積極的な技師会活動への参入を推進していく。

4. 情報網の整備（災害対策を含む）

新型コロナウイルス感染拡大の教訓から、情報管理部・学術部と協働してオンラインおよびYouTubeでの情報ネットワークを構築し、学会、研修会や会議など多様的に実施できるよう強化していく。HPの個人情報の保護・セキュリティ強化に努め、広報部と協働し、HPの更なる充実と迅速かつ的確な情報提供を推進する。日臨技は災害対策支援規程に基づき効果的な支援活動を行うため各都道府県技師会と災害時支援協定を締結した。

「都道府県災害対策マニュアル」を構築していく。

5. 公益事業の推進と他関連団体との連携強化

日臨技委託公益事業である「検査と健康展」の更なる充実、「がん予防啓発キャンペーン」「HIV/STI 予防啓発キャンペーン」による県民への健康増進活動で県健康増進課および関連団体と連携し充実を図り、県民の健康増進の向上に寄与する。関連団体とは積極的に連携を図り、開かれた技師会を目指す。主に、例年同様、下記各種行事・事業への共催・参加・協力を促進していく。

- 1) 山梨県医師会精度管理調査事業
- 2) 山梨県健康増進事業への参加・協力
- 3) 日臨技及び関甲信支部、首都圏支部との連携・協力
- 4) 医療関連団体、学会との連携・協力
- 5) 公益事業の推進・共催、公衆衛生向上への寄与
- 6) 災害時における県や他医療団体との連携と協働（感染症関係人材養成事業）

6. 県技師会主催・担当事業の開催

- 1) 県医学検査学会 担当；B地区
(市立甲府病院・甲府市医師会センターグループ)
- 2) 学術講習会 担当；郡内地区
- 3) リフレッシュ研修会 担当；峡南地区
- 4) 人材育成研修会（新人教育研修会・地域ニューリーダー育成講習会等）
- 5) 山梨臨床検査フォーラム
- 6) 検査と健康展
- 7) HIV/STI 予防啓発キャンペーン
- 8) その他